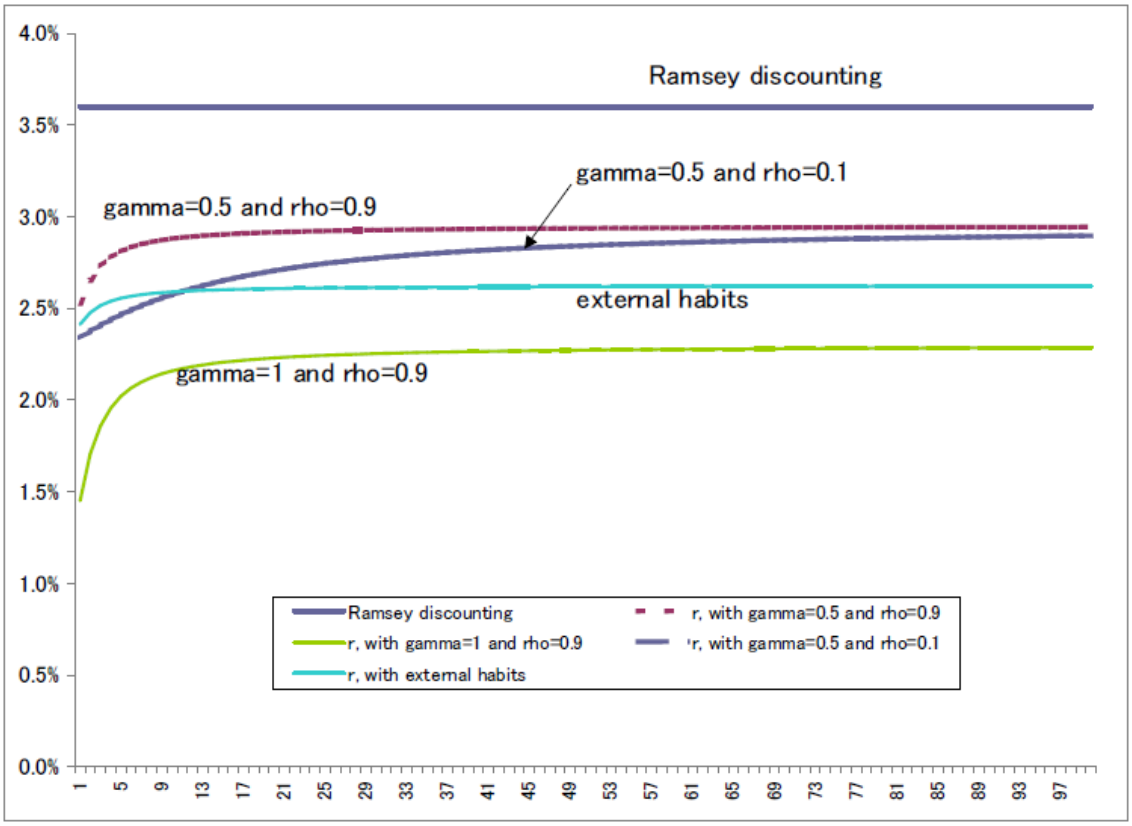
割引率と習慣形成

山口臨太郎（野村総合研究所）

本稿では、主観的福祉を用いた割引率について検討する。具体的には、習慣形成のオーソドックスな過程を使うと、ラムゼー方程式で導かれる消費割引率が従来よりも減少することを確認する。これは Gollier et al. (2011)の結果と同じだが、習慣の記憶や習慣の重要性を表すパラメータを使って習慣を状態変数として扱うことで、いろいろなメリットがある（過去の消費トレンドと将来の消費見通しとのレジーム転換のケースを検討できる等）。また、モデルの修正をあまり行わずに、外部の参照水準の割引率への影響も検討できる。さらに、負の成長率が予想されている場合の割引率は、習慣があることでラムゼー割引率より高くなると思われる。